

・早速、早速「ママよんでも名前は代えてね！」とリクエストされ、不思議な不思議な気持ちで一緒に読みました。内容は知つてるのでしょ？ね、とても細かい絵のことを説明してくれたりして、なかなか進まない。自分が絵本の中に入つているような気持ちになりました。

添えられていたお手紙を読んで、また涙です。私の中では楓の5年前、まーくんの4年前のことが思い返されました。かわいい盛りの我が子の姿。歩くことも、しゃべることもやつとの我が家を、いつも笑顔で毎日迎えてくれるおじちゃん先生。言葉数は少なくて、どれだけ心で助けてもらつたことか！今でも赤ちゃん組に入つていくと、あのおじちゃんの、あつたかい温もりを感じます。きっとずつと前から小羊の先生方はみんな同じように子供達を迎えてくれていたん

・おじちゃん先生の絵本がありがとうございました。表紙を見たとたん涙があふれました。さつくもちゃんが「おじちゃん先生だー！」と言つて絵本をひとりじめして読んでいました。絵本に「ももちゃん」という女の子ができて、すっごくうれしそうに喜んでいました。ほんの内容、絵とともにすばらしく、とても感動しました。一生の思い出の絵本だと思います。大事にしていきたいと思います。

・ねる前に読んであげました。保育園の子の名前におきかえてあげると、笑いながらよく聞いていました。「バッタ！セミ！」絵を見て指さして教えてくれました。おじちゃん先生がい

なくなつてもこの本のおかげでいつまでも子供たちの心におじちゃん先生の姿がよみがえりますね！！朝も起きると、ねぼけながら「おじちゃんは？」と（笑）夢に出てきたのかなあ：・

・おじちゃん先生の本を読み聞かせていて、私が泣いてしまつて：・啓太に「お母さん大丈夫かい」と心配されました。

・読んでいるとおじちゃんが園に居た頃を思い出し、感極まって読めなくなつてしましました。星組の時から昼寝をしなくて、よくおじちゃんが抱っこ、おんぶをしたり、砂場で遊ばせてもらつたと聞いていました。早番の時には園に着くとすぐおじちゃんの膝の上に坐つて、園から帰る時には駐車場に居るおじちゃんに抱きついていつもニコニコ笑つています。おじちゃんの存在は今でも大きいですね。美喜も絵本を読んでいて、おじちゃんと過ごした日々を思い出してくれています。

